

若年無業者の概要

1 「若年無業者」の状態

＜「若年無業者」は 60,800 人、15～34 歳人口に占める構成比は 1.8%＞

「若年無業者」は 60,800 人で、男性が 36,500 人、女性が 24,300 人となっている。そのうち「非求職者」が 28,600 人で、「非就業希望者」が 32,200 人となっている。また就業経験のある「うち前職あり」の「若年無業者」は 29,600 人で「非求職者」が 19,200 人、「非就業希望者」が 10,400 人となっている。

15～34 歳人口に占める「若年無業者」の構成比は 1.8%となっており、男性が 2.1%、女性が 1.5%となっている。また、全国と比較すると、総数では 0.3 ポイント低くなっており、男性では 0.4 ポイント、女性では 0.1 ポイント低くなっている。

表1 若年無業者数

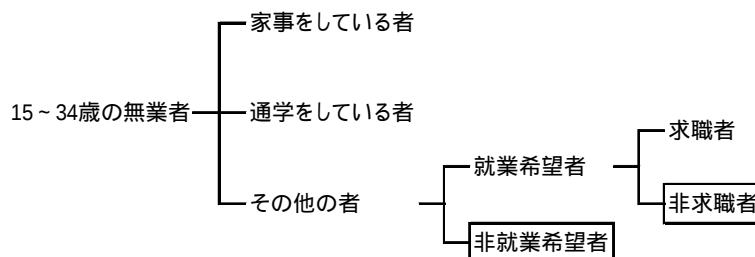
		(単位 人、%)					
区分		総数	男	女	全国総数	男	女
実数	15～34歳人口	3 410 200	1 760 300	1 649 800	30 566 500	15 547 800	15 018 700
	若年無業者	60 800	36 500	24 300	632 700	394 600	238 200
	非求職者	28 600	17 500	11 000	301 700	193 800	107 900
	非就業希望者	32 200	18 900	13 300	331 000	200 800	130 300
	(うち前職あり)						
	若年無業者	29 600	15 800	13 800	266 400	160 700	105 800
	非求職者	19 200	10 900	8 300	187 800	119 000	68 900
	非就業希望者	10 400	4 900	5 500	78 600	41 700	36 900
15 歳人口に占める構成比	15～34歳人口	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	若年無業者	1.8	2.1	1.5	2.1	2.5	1.6
	非求職者	0.8	1.0	0.7	1.0	1.2	0.7
	非就業希望者	0.9	1.1	0.8	1.1	1.3	0.9
	(うち前職あり)						
	若年無業者	0.9	0.9	0.8	0.9	1.0	0.7
	非求職者	0.6	0.6	0.5	0.6	0.8	0.5
	非就業希望者	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2

注1：若年無業者は、非求職者及び非就業希望者の合計である。

注2：構成比はすべて「15～34歳人口」に対するものである。

若年無業者とは

15～34歳の無業者のうち、家事も通学もしていないその他の者で、または の者
 非求職者：就業を希望している者のうち、求職活動をしていない者
 非就業希望者：就業を希望していない者



注：家事をしている者、通学をしている者にも、就業希望者及び非就業希望者がいる。

2 「若年無業者」の比較

＜5年前に比べ12,000人の減少、15～34歳人口に占める構成比は0.2ポイント低下＞

「若年無業者」を5年前と比較すると12,000人の減少となっており、男性で7,200人、女性で4,700人の減少となっている。15～34歳人口に占める構成比でみると総数で0.2ポイント低下しており、男性が0.2ポイント、女性が0.1ポイント低下している。

また、全国でも「若年無業者」が減少したものの、15～34歳人口に占める構成比は上昇している。平成14年の構成比を都と比較すると、総数及び男女ともほぼ同じであったが、今回は都における構成比が低下している。

表2 若年無業者数の比較（平成19年・平成14年）

（単位 人、%、ポイント）

区分		19年	14年	増減	全国 19年	全国 14年	増減
実数	15～34歳人口	3 410 200	3 715 800	305 600	30 566 500	34 023 100	3 456 600
	若年無業者	60 800	72 800	12 000	632 700	694 000	61 300
	男	36 500	43 700	7 200	394 600	418 700	24 100
	女	24 300	29 000	4 700	238 200	275 300	37 100
15～34歳 人口に占 める構成比	15～34歳人口	100.0	100.0	-	100.0	100.0	-
	若年無業者	1.8	2.0	0.2	2.1	2.0	0.1
	男	2.1	2.3	0.2	2.5	2.4	0.1
	女	1.5	1.6	0.1	1.6	1.6	0.0

注：構成比は、「15～34歳人口」に対するものである。

3 「就業希望者のうち非求職者」の就業希望理由

＜主な理由は「知識や技能を生かしたい」が6,200人で男女とも最も多い＞

表3 就業希望理由別若年無業者数（就業希望者のうち非求職者）

（単位 人、%）

区分		総数	男	女	うち未婚		全国総数
					男	女	
実数	総数	28 600	17 600	11 000	15 500	10 500	301 700
	失業している	3 700	3 200	500	2 300	500	58 100
	学校を卒業した	2 800	1 700	1 100	1 700	1 100	13 800
	収入を得る必要が生じた	4 700	2 600	2 100	2 200	2 100	53 600
	知識や技能を生かしたい	6 200	3 500	2 600	3 200	2 600	33 800
	社会に出たい	4 500	2 300	2 200	2 300	1 900	62 400
	時間に余裕ができた	500	-	500	-	300	2 500
	健康を維持したい	2 100	1 800	200	1 800	200	8 700
	その他	4 000	2 300	1 700	1 900	1 700	68 300
構成比	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	失業している	12.9	18.2	4.5	14.8	4.8	19.3
	学校を卒業した	9.8	9.7	10.0	11.0	10.5	4.6
	収入を得る必要が生じた	16.4	14.8	19.1	14.2	20.0	17.8
	知識や技能を生かしたい	21.7	19.9	23.6	20.6	24.8	11.2
	社会に出たい	15.7	13.1	20.0	14.8	18.1	20.7
	時間に余裕ができた	1.7	-	4.5	-	2.9	0.8
	健康を維持したい	7.3	10.2	1.8	11.6	1.9	2.9
	その他	14.0	13.1	15.5	12.3	16.2	22.6

「就業希望者のうち非求職者」について「就業希望の理由」をみると、「知識や技能を生かしたい」が男女とも最も多く、総数では6,200人で構成比は21.7%となっている。次に「収入を得る必要が生じた」が4,700人で16.4%、続いて「社会に出たい」が4,500人で15.7%となっている。

また、未婚の「若年無業者」についてみると、「知識や技能を生かしたい」が男女とも最も多く、男性は3,200人で20.6%、女性は2,600人で24.8%となっている。

全国総数をみると、「その他」が最も多く22.6%となっている。次に「社会に出たい」が20.7%、続いて「失業している」が19.3%となっている。

4 「就業希望者のうち非求職者」の非求職理由

＜主な理由は「病気・けがのため」が9,400人で男女とも最も多い＞

表4 非求職理由別若年無業者数（就業希望者のうち非求職者）

(単位 人、%)

区分	総数	すぐつくつもり	すぐではないがつくつもり	つくかどうかわからない	男	すぐつくつもり	すぐではないがつくつもり	つくかどうかわからない	女	すぐつくつもり	すぐではないがつくつもり	つくかどうかわからない
総 数	28 600	4 700	16 500	7 300	17 500	3 700	7 900	5 700	11 000	1 000	8 600	1 600
探したが見つからなかった	1 700	800	300	600	1 300	800	300	200	400	-	-	400
希望する仕事がありそうにない	2 300	500	1 500	300	1 100	300	500	300	1 200	200	1 000	
知識・能力に自信がない	3 000	400	1 500	1 200	2 200	400	900	900	800		600	300
病気・けがのため	9 400	500	5 400	3 500	5 300	-	2 800	2 600	4 100	500	2 700	900
高齢のため	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
育児や通学などのため仕事が続けられそうにない	200	-	200	-	-	-	-	-	200	-	200	-
家族の介護・看護のため	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急いで仕事につく必要がない	1 500	-	1 200	300	800	-	500	300	700	-	700	-
学校以外で進学や資格取得などの勉強をしている	6 100	400	5 100	500	3 300	400	2 400	500	2 800	-	2 900	-
そ の 他	4 400	2 300	1 300	900	3 600	2 000	700	900	900	300	600	-

「就業希望者のうち非求職者」について「非求職理由」(求職活動をしていない理由)をみると「病気・けがのため」が9,400人で最も多くなっている。次に「学校以外で進学や資格取得などの勉強をしている」が6,100人、続いて「その他」が4,400人となっている。

男性では、「病気・けがのため」が5,300人で最も多く、次に「その他」が3,600人、「学校以外で進学や資格取得などの勉強をしている」が3,300人となっている。

女性では、「病気・けがのため」が4,100人で最も多く、次に「学校以外で進学や資格取得などの勉強をしている」が2,800人で、「希望する仕事がありそうにない」が1,200人となっており、男女とも「病気・けがのため」が「非求職理由」で最も多くなっている。

「就業希望時期」をみると「すぐではないがつくつもり」が最も多く16,500人で、「つくかどうかわからない」は7,300人、「すぐつくつもり」は4,700となっている。「すぐではないがつくつもり」は男性が7,900人、女性が8,600人で男女とも最も多くなっている。

5 「非就業希望者」(就業を希望しない者)の非就業希望理由

<主な理由は「病気・けがのため」が9,900人で男女とも最も多い>

「非就業希望者」について就業を希望しない理由をみると、「病気・けがのため」が9,900人で30.7%と最も多くなっている。次に「学校以外で進学や資格取得などの勉強をしている」が7,700人で23.9%、続いて「その他」が6,200人で19.3%となっている。

就業を希望しない理由は、男女とも「病気・けがのため」が最も多く、男性が5,900人で31.2%、女性が4,000人で30.1%となっている。

全国における就業を希望しない理由は、「病気・けがのため」が都と同様に最も多くなっている。また、「育児のため」「家族の介護・看護のため」「家事(育児・介護・看護以外)のため」「ボランティア活動に従事している」「高齢のため」などの理由は1%以下の構成比となっている。

表5 非就業希望理由別若年無業者数(非就業希望者)

(単位 人、%)

区分		総数	男	女	全国総数
実数	総数	32 200	18 900	13 300	331 000
	育児のため	-	-	-	3 100
	家族の介護・看護のため	-	-	-	1 100
	家事(育児・介護・看護以外)のため	-	-	-	1 000
	通学のため	1 700	900	800	10 300
	病気・けがのため	9 900	5 900	4 000	104 100
	高齢のため	900	900	-	900
	学校以外で進学や資格取得などの勉強をしている	7 700	5 200	2 500	41 700
	ボランティア活動に従事している	-	-	-	2 100
	仕事をする自信がない	900	700	200	14 200
	その他	6 200	3 800	2 400	94 500
	特に理由はない	4 900	1 700	3 300	56 900
構成比	総数	100.0	100.0	100.0	100.0
	育児のため	-	-	-	0.9
	家族の介護・看護のため	-	-	-	0.3
	家事(育児・介護・看護以外)のため	-	-	-	0.3
	通学のため	5.3	4.8	6.0	3.1
	病気・けがのため	30.7	31.2	30.1	31.5
	高齢のため	2.8	4.8	-	0.3
	学校以外で進学や資格取得などの勉強をしている	23.9	27.5	18.8	12.6
	ボランティア活動に従事している	-	-	-	0.6
	仕事をする自信がない	2.8	3.7	1.5	4.3
	その他	19.3	20.1	18.0	28.5
	特に理由はない	15.2	9.0	24.8	17.2

利用上の注意

本集計結果は、総務省が公表する指定統計の数字と相違があることがあります。